

令和8年9月3日
危機管理部

指定避難所運営用備蓄物資の見直しの検討状況について

1 主旨

令和8年2月5日開催の本委員会で報告した「指定避難所運営用備蓄物資の見直し」について、社会状況の変化や過去の災害の教訓、国や都の動向を踏まえ、庁内で検討委員会を設置して検討を行っているところ、その検討状況について報告する。

2 これまでの検討状況

(1) 検討の前提（「主な課題」及び「見直しの方向性」）

- ① 食料や生活必需品など、国が示す主要8品目等については、多様な商品が開発されるなど見直しが必要になっている。

⇒ 多様化する商品や最新の技術を踏まえ、最適な商品へ更新する。

- ② 多様な品目の備蓄に取り組む一方、品目・数量ともに管理が煩雑になっている。

⇒ 発災後3日分の避難所生活者用備蓄を確保するため、限られた保管スペースの中で真に必要な品目・数量への最適化を行う。

併せて、多角的な手法から事業者との協力協定による物資確保を検討するとともに、区民による非常用持出物品の避難所への持ち込みを啓発することにより、総合的な物資の確保を図る。

- ③ 電源等の資機材については、保守点検等の維持管理にかかるランニングコストや安全面から、品目及び管理体制の見直しが必要である。

⇒ 避難所運営に必要な電力量の積算や保守点検の在り方等を踏まえ、最適な資機材の管理体制を整備する。

(2) 検討委員会の実施状況等

- ① 関係する災対各部、女性防災コーディネーター、備蓄物資管理業務受託事業者により、検討委員会を設置し検討を実施中である。

開催日	内容
2月 2日	第1回検討委員会（検討スケジュール、見直しの方向性等）
3月25日	第2回検討委員会（備蓄品目・数量等の方向性、指定避難所における電力ニーズ（一案）等）
3月～ 4月下旬	庁内等意見聴取（避難所運営用防災倉庫備蓄物品一覧（標準版）見直しに係る意見を調査）
5月12日	第3回検討委員会（見直しに対する庁内意見等の確認等）
5月～7月	庁内調査による各意見の検討
6月18日	第4回検討委員会（検討期間の見直し等の検討要領）
8月28日	第5回検討委員会（主要8品目等の検討結果の取りまとめ）

（3）主な検討結果及び課題

- ① 多様化する商品や最新の技術を踏まえ、最適な商品へ更新するため、最新の備蓄物資等に関する情報収集を行うとともに、展示等により検討委員に対する理解を促進した。
- ② 避難所生活者用備蓄を確保するための、庁内、女性アドバイザー等からの意見聴取を行ったところ、約200件を超える幅広い意見や要望等をいただいた。このことを踏まえ、限られた保管スペースの中で真に必要な品目・数量への最適化を行う必要性から、より慎重な検討が必要である。

※ 特に女性、高齢者・障害者対応、子育て世代対応等に係る多様なニーズ

【一例】

- ・ ビスケットは、より食べやすく、有効活用も行いやすい商品への変更が必要である。
- ・ 粉ミルクについては、計量不要で衛生的かつ容易に授乳できるキューブ型やスティック型を導入・拡充すべきである。
- ・ 嚥下（えんげ）機能に配慮した食事・水分提供のため、ペースト食及びとろみ剤の備蓄を充実すべきである。
- ・ 女性用の生理用品は、夜用や多い日用を含む多様な製品の備蓄を進めるべきである。
- ・ 口腔衛生の維持と感染症予防のため、歯ブラシ及び歯みがき剤の備蓄を充実すべきである。

このような状況を踏まえ、避難所避難者の生命の維持に係る重要な主要8品目等を優先して検討を行った。

別紙「指定避難所備蓄物資における主要8品目等の検討(案)」を参照

- ③ 避難所運営に必要な電力量の積算や保守点検の在り方等を踏まえ、最適な資機材の管理体制を整備するため、発災後3日間（混乱期）の避難所における必要電力の具体化の他、各避難所運営等に係る個別課題もあることから、また、関係部署との調整も必要であるなど、より慎重かつ実地的な検討が必要である。
- ④ 多角的な手法から事業者との協力協定による物資確保を検討するとともに、区民による非常用持出物品の避難所への持ち込みを啓発することにより、総合的な物資の確保要領を検討する。

3 今後の検討要領

- (1) 検討委員会の結果を踏まえ、また、関係所管等と連携し各意見を適切かつ慎重にとりまとめる必要があることから、当初令和8年度の1年間とした検討期間を見直し、令和9年度にかけて検討を行う。
- (2) 主要8品目等以外の備蓄品については、令和8年度から9年度にかけ関係所管の意見を総合調整し、取りまとめる。
- (3) 指定避難所における災害時の電力確保は極めて重要であることから、指定避難所において必要な総電力の把握、避難所運営委員会等の業務に必要な資機材の調整・確保のためには、関係所管等との調整が不可欠であり、その具体化を踏まえて、発電機等の数量、管理要領等を検討する。

4 今後のスケジュール

令和8年9月～2月	8品目以外の検討、電力確保のための検討
令和9年2月	災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（進捗報告）
令和9年2月中旬 ～4月中旬	意見照会
令和9年9月	災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（進捗報告）
令和10年2月	災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会（結果報告）

指定避難所備蓄物資における主要８品目等の検討(案)

項目	品目	現行	検討結果(案)	主な意見等
1 食料	保存水	348ℓ (内訳) 2ℓ 174本 5年保存	348ℓ (内訳) 2ℓ <u>162本</u> 500ml <u>48本</u> 10年以上保存	・更新に係る事務負担の軽減等を含め備蓄管理の効率化を図るため、5年保存水から10年以上保存可能な商品へ切替える。 ・使い勝手を考慮して、一部を500mlペットボトルへ切替える。
	経口補水剤	—	1,000包(500ℓ分)	・脱水症や熱中症対策として、経口補水剤(パウダータイプ)を導入する。 ・経口補水液は、保管スペースや保存期間に課題があることから、備蓄には適さない。
	アルファ米	1,600食 (内訳) 50食炊き出し 32箱 5年保存	1,600食【現状維持】 (内訳) 50食炊き出し 32箱 5年保存	・個食は、発災初期において取り回しが難しいため、炊き出しセットの備蓄を継続する。 ・発災直後は、ビスケット等の調理不要な備蓄食料での対応を基本とし、炊き出し体制が整い次第、アルファ米(炊き出しセット)による配給が適切である。 ・都の寄託物資及び支援物資の受け入れ状況に応じて、個食のニーズ等にも順次対応していく。
	ビスケット	3,200食 5年保存	3,200食 ※品目の見直しを行う 5年保存	・ビスケットは、保存容積やコストパフォーマンスに優れており、個食かつ調理不要で発災初期の食料として優秀な品目であるため、備蓄を継続する。 ・災害時においても、避難者が継続して食べやすい備蓄食料とするため、栄養面に加え、味や食感などの嗜好性にも配慮した商品へ見直す。
	おかゆ	576食 (内訳) 白がゆ 576食 5年保存	624食 (内訳) 白がゆ 216食 味付き 408食 5年保存	・高齢者や体調不良者など要配慮者への対応を強化するため、これまで同様の「レトルトおかゆ」を基本としつつ備蓄量を拡充する。 ・多様なニーズに対応できるよう味のバリエーションを増やす。
	とろみ剤	—	300包 1年半～2年保存(短期間)	・高齢者等への支援及び避難生活における健康管理の充実を図るため、新たにとろみ剤を導入する。 ・とろみ剤の備蓄は、家庭備蓄の推進も同時に進めるべきである。 ・世田谷区の高齢者等の人口比率等から、避難者の2%程度を想定した量を備蓄する。
2 毛布	毛布	500枚	600枚	・令和8年度、備蓄している毛布のリパックを実施した場合、各倉庫の面積が約5㎡捻出できるため、そのスペースを毛布の増量の他、食料やその他の避難所生活必需品等の備蓄に活用する。 ・毛布は、想定避難者数分の確保に向けて、まずは各避難所へ100枚を追加配備する。
3 乳児用ミルク	粉ミルク	通常 300g 20缶 アレルギー対応 800g 2缶 缶：1年半～2年保存	通常 16g 380包 アレルギー対応 16g 48包 スティックタイプ：1年半～2年保存	・衛生面及び利便性の向上を図るため、現在備蓄している缶入り粉ミルクから、キューブタイプ又はスティックタイプへ切替える。 ・液体ミルクは、保存期間や保管環境、費用対効果等に課題があるため引き続き導入を見送り、家庭備蓄の推進や災害時協力協定等による確保手段の検討を継続する。
4 乳児・小児用おむつ	乳児・小児用おむつ	S／164枚 M／128枚 L／108枚 3年間(メーカー推奨)	新生児／68枚 S／124枚 M／156枚 L／88枚 XL／38枚 10年保存加工(真空パック)	・幅広い年齢の乳幼児に対応できるよう、現行サイズ区分に加え、新たに「新生児用」及び「XLサイズ」を導入する。 ・更新に係る事務負担の軽減等を含め備蓄管理の効率化を図るため、使用期限がより長い商品へ切替える。
5 大人用おむつ	大人用おむつ	ML／120枚 3年間(メーカー推奨)	S／22枚 ML／88枚 LL／66枚 10年保存加工(真空パック)	・高齢者や要介護者等への対応を強化するため、現行サイズ区分に加え、新たに「Sサイズ」及び「LLサイズ」を導入する。 ・更新に係る事務負担の軽減等を含め備蓄管理の効率化を図るため、使用期限がより長い商品へ切替える。
6 携帯トイレ・簡易トイレ	携帯トイレ	3,000回分 10年保存	8,500回分 10年保存	・トイレ確保・管理計画(仮称)の検討状況を踏まえ、数量や性能面の見直しを継続する。 ・当面の目標として、各避難所へは1日分(8,500回分)を備蓄する。今後も検討を継続する。
7 トイレトパー	トイレトパー	48ロール 10年保存	48ロール【現状維持】 10年保存	・トイレ確保・管理計画(仮称)との整合を図りながら必要な備蓄量の検討を継続する。 ・発災初期に必要な数量を確保するため、学校等の指定避難所施設と常用物品の災害時利用について協議を行う。 ・家庭備蓄の推進及び避難所への持ち込みを啓発することにより、総合的な確保を図る。
8 生理用品	生理用ナプキン	2,400枚 3年保存	2,400枚【現状維持】 3年保存	・現状、備蓄量は十分であり、また多用途に対応できる商品を備蓄している。 ・避難所の運営や管理方法等を踏まえると、備蓄種類の増加は混乱を招く恐れがあるため、現状維持が適当である。 ・家庭備蓄の推進及び避難所への持ち込みを啓発することにより、総合的な確保を図る。